ピア・サポート・プログラムについて

新入生サポート

コーディネーター　宮尾 正樹（文教育学部）

ピア・サポート・プログラムは、新入生の大学生活への適応を支援する制度で、2003年度より文教育学部で実施されています。ボランティアの上級生がサポーターとなって、数人の新入生とピア・サポート・グループを作り、時間割の組み方、学内施設の利用の仕方などのアドバイスをし、相談に乗ります。各グループにはアドバイザーの教員がつきます。大抵は、週一回程度、昼食を一緒にとりながらの活動です。昨年、今年とも、新入生のおよそ八割が参加し、２年生から院生まで約30人がサポーターになってくれました。プログラム主催のコンパや講演会（今年は秋に予定）も行っています。

本プログラムの新入生にとってのメリットは、第一に、長期間にわたって、必要な時に、身近な上級生から理解可能な形で情報を得ることができることです。また、サポーターや他の新入生との交流により、お茶大の空気に早く慣れることができます。

サポーターも、新入生の適応を支援することで、広い意味での大学の運営に参加した充実感が得られ、アドバイザーの教員や他のサポーターとの交流により、自分自身の大学生活の空間を広げることができます。

来年は最初にサポートを受けた学生が三年生になります。自分がサポートを受けた経験を、ぜひサポーターとして活かしてほしいと思います。

「グローバル文化学」コース紹介

カリキュラム

文教育学部助教授　熊谷 圭知

グローバル文化学は、今年から新たに創られた「コア・クラスター」（学際的なテーマを追究するお茶大独自の教養教育の授業群）の一つです。「グローバル文化学」（総論・必修）のほか、「イスラムの社会と文化」「比較法文化論」「国際協力学」「共生日本語入門」「異文化交流実習」…等々、新鮮な響きの科目が並びます。このコースがめざすのは、グローバル化する世界における新しい「文化」のあり方を考えることです。

１）グローバル化の中で、地域の（ローカルな）文化はどう変わるか？

２）異なる文化をもつ人々とコミュニケーションするには？

３）異文化を理解し、真の国際協力を実践するには？

現代世界を生きる私たちが避けて通れないこうした問いを、ひとりひとりが自らの頭で考え、答えを探していくコースです。英語での講義、ディベートを取り入れた参加型の授業、異文化交流の実習など、新しい手法の授業も数多く盛り込まれています。

参加者は、全学部にまたがり、総論の受講者だけで150名を超えています。アンケートでは、受講動機として、海外の社会や文化に興味があるという人が4分の3、異文化間のコミュニケーションや、国際協力に関心があるという答も半数近くありました。将来、できれば海外に関わる仕事がしたいという希望をもつ学生が85％を超えています。「お茶大にもようやくこういうコースができた！」と喜ぶ声。これまでのお茶大には少なかった、開かれた知性と感性を備えた、アクティブな学生たちが確実に育ちはじめているようです。

社会臨床論コースが新しくなりました

社会人リカレント

社会臨床論コース主任　酒井　朗

社会臨床論コースは、大学院前期課程発達社会科学専攻に1997年度に開設されました。教育、保育・子育て、心理、保健、福祉などの種々のヒューマン・サービスに携わる社会人、及び将来そうした活動に積極的に携わろうとする方々を対象に、各自の実践を振り返り、専門的力量を向上させるためのカリキュラムを提供しています。

本コースではより多くの社会人が学べるように、今年度から次のような改革を実施しました。①夜間授業の本格開講、②社会人特別選抜試験から外国語を廃止、③修士論文を他科目で代替可能に、④長期履修学生制度の導入（同制度は大学院前期課程全体に適用）。

昨年８月末と２月の入試を経て、本年４月には16名の方々を新たに迎えることができました。新１年生には、幼稚園・小学校・高校・専門学校の教師、助産師、リハビリセンター職員、社員研修アドバイザー、法学研究者、雑誌編集者、心理療法家、会社員、民間非営利団体職員、主婦など多彩な経歴・年齢の方が集まり、昼間も夜間も大いに盛り上がっています。本コースのホームページを是非一度ご覧下さい。

URL：http://www.hss.ocha.ac.jp/zenki/sharin/index.htm

家庭科教員キャリアコースがスタート

キャリアサポート

生活科学部長　戒能 民江

本年4月、生活科学部の「家庭科教員キャリアコース」が発足しました。生活科学部では、中学・高校の「家庭科」の免許が取れますが（幼小免許も取得可能）、本コースの設置によって、学生のキャリア計画を学部として支援する体制を整えました。

「結婚・出産しても働き続けられる労働環境が魅力的だった」と語るのは、高校教員を経て現在大学助教授のＡさん。また、企業をいったん退職した後、非常勤講師として教壇に立ったＢさんは、「家庭科の奥深さを改めて感じる」と充実した毎日をふりかえります。２人の本学卒業生はそれぞれ違ったライフコースを歩んできましたが、家庭科教員免許を取得していたことで、自分の途を積極的に切り拓くことが出来たのです。家庭科教員になるだけにとどまらず、さらにステップアップすることで、多様なキャリアにつながります。

それに、家庭科は「今」を切り取る魅力的な教科です。食の安全、環境やエネルギー問題、ジェンダーや家族問題、消費生活など、子どもたちは目を輝かせて学んでいます。

家庭科教員キャリアコースでは、履修指導や先輩を講師に迎えたセミナー、教員と学生の懇談会、資料・図書コーナーの設置など、教員採用試験の支援とともに、広い視点からキャリアサポートを行っていきます。今後、生活科学部では、さまざまな資格取得の支援に取り組み、学生のキャリアプランづくりの応援に力を入れていく予定です。